

議 事 録

会議の名称	令和7年度岩倉市総合教育会議
開催日時	令和8年2月16日(月)午後1時から午後2時まで
開催場所	岩倉市役所 7階 会議室7
出席者	<p>【構成員】</p> <p>岩倉市長 久保田 桂朗 教育長 野木森 広 教育長職務代理者 松本 恵 教育委員 押谷 誠 教育委員 三須 祐子 教育委員 大村 あゆみ 教育委員 浅美 裕樹</p> <p>【事務局】</p> <p>教育部長 石川 文子 学校教育課長 酒井 寿 学校教育課管理指導主事 加藤 佳子 学校教育課指導主事 柴田 健治 学校教育課主幹 井上 佳奈 生涯学習課長 中野 高歳 総務部長 中村 定秋 企画財政課長 井手上 豊彦 企画財政課主幹 宇佐見 信仁 企画財政課主事補 梅津 碧美</p>
会議の議題	(1) 岩倉市立学校教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画(案)について (2) その他
議事録の作成方法	<input checked="" type="checkbox"/> 要点筆記 <input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> その他
記載内容の確認方法	<input checked="" type="checkbox"/> 会議の長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他()
会議に提出された資料の名称	①会議次第 ②岩倉市総合教育会議構成員名簿 ③岩倉市教育職員業務量管理・健康確保措置実施計画の策定について ④岩倉市教育職員業務量管理・健康確保措置実施計画(案)
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍聴者数	0人
その他の事項	議事録作成者 企画財政課 梅津 碧美

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1 開会

2 市長あいさつ

3 協議事項

（1）岩倉市立学校教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画(案)について事務局から資料③～④について説明ののち、意見交換。

市長：どんなことでも結構なので、ご発言をいただきたい。

松本委員：これまで沢山のガイドラインを策定してきている中で、更に新たなものを策定しなければ目標の達成は難しいのか。また、2. 目標（1）時間外在校等時間に関する目標について、1 文目の「令和 11 年度までに、すべての教職員の時間外在校等時間を月 45 時間以内とする。」、と 2 文目の「1 か月の時間外在校等時間の平均時間を、月 30 時間程度に削減」の違いは何なのか教えていただきたい。

事務局：1 文目は、すべての教職員一人ひとりの時間外在校等時間を 45 時間以内にするという意味に対して、2 文目は時間外在校等時間の月平均を 30 時間程度まで削減するという意味である。

教育長：1 文目については、時間外在校等時間が 45 時間を上回る人をなくすという意味合い。国の指針にも記載のある、教職員を一人残らず 45 時間以内に抑えると、大体の平均時間が 30 時間になるため、2 つの文章は同義と言える。

松本委員：（2）ワーク・ライフ・バランス及び働きがいに関する目標について、「ストレスチェックの総合健康リスク値を 80 以下まで減少させる」とあるが、80 という数値は高いという意味か。

事務局：現在岩倉市内の 7 校中 4 校は 80 以下に抑えられているが、残り 3 校が未達成であるため、全ての学校で達成できるように目標に入れている。

松本委員：「やりがいを感じる」に対する肯定回答率について 85%以上にするというところがあるが、岩倉市は現在どの程度の数字なのか。

事務局：昨年までは全校職員にエンゲージメントサーベイ（働きがい診断）を実施していた。今後は業務量管理をする上で、学校評価内の教職員評価の中に項目を組み込み、回答してもらうことにするため、従来とは異なる。

松本委員：初期目標として 85%以上と定めたということか。

事務局：そのとおり。

松本委員：統括地域学校協働活動推進委員は新たに作るものなのか。コミュニティ・スクールに配置されている方とは異なるのか。

教育長：コミュニティ・スクールの中で地域連携コーディネーターと呼んでいるが、地域連携コーディネーターというのは岩倉市独自の呼び名であり、正式名称は地域学校協働活動推進委員という。現在各学校に 1 人または 2 人配置している。これまでは社会教育指導員に兼務していただいていたが、業務が多いためあまり機能していなか

った。来年度からの変更では、生涯学習課内の仕事を整理・見直し、統括地域学校協働活動推進委員としてコーディネートできる時間を増やしていく。

押谷委員：目標について、達成するための具体的な案を考える会議などを開催しているのか。岩倉中学校の産業医をしている中で、小学校の時間外が増えるのは特別支援学級などマンパワーが足りていないことが原因であると感じる。そこを改善できるような具体的な案がないと、目標を掲げていたとしても解消は難しいと感じる。

教育長：松本委員からもご指摘があったように、これまでたくさんの計画やガイドラインを策定しており、時間外勤務が減ってきているのはこれらの成果だと考えているが、それで十分だとは教育委員会としても決して考えてはいない。市全体としての実施計画は今回議題にあげたものだけになるが、これまではガイドラインに基づいて教育委員会事務局が進捗管理を行ってきたという流れがある。校長会等の様々な場で議論を重ねながら学校に役立つことは何かを個別に考えてきたし、実施計画策定後も同様の流れになると思う。例えば、中学校の要望を受けて自動採点ソフトを導入したり、ICT支援員、スクールカウンセラーを設置したりしてきた。

押谷委員：教育委員会内で出た、疑問や検討に対してどのように解決したという結果を後ほど共有していただきたい。具体的改善点を明確にしてもらえると、変更が把握できてよいと感じる。報告がなければその後どうなったのかわからないという現状。

教育長：これまでの取組は履歴を見ると確認はできる。例えば、児童生徒作品展を廃止して、美術展に小中学生の部を作ることで、全ての児童生徒の作品を保存・管理し事前に展示するという職員の大きな業務負担を削減した。それが子どものためになっているかは別問題ではある。美術に興味のある子どもたちは自主的に出品して、美術展の中で市長賞等の様々な賞で表彰を受けることに喜びを感じる児童生徒もいる。

押谷委員：校内清掃について、ボランティアをお願いするのはよいことだが、継続していくにあたって予算立てが必要ではないだろうか。また、子どもの手では匂いまできれいにするのが難しいため、例えば、半年に1回程度専門業者を入れて清掃するとボランティアの負担も少なくなるのではないか。

市長：小中学校のトイレの改修を前倒しし、少しでも早く取り組んでいる。定期的な清掃についてはよく考える必要がある。学校生活の中で、トイレは大きな割合を占めるものであると把握しているため、庁内でも議論していく。

浅美委員：ボランティアへの依存率を上げる必要があると感じる。それに伴い、現在無償で行っているが、ボランティアのやりがい継続のためにも何かあるとよいと考える。トイレの清掃に関しても、人数が集まるときと集まらないときがあり、コーディネーターの方が苦労している。

浅美委員：総合健康リスク値について、何故この基準値にしたのか。

事務局：この値はストレスチェックでの指標で、目標値を80としている。全国平均が100。

浅美委員：健康診断等の検診について、教職員はしっかりと受診しているのか。

教育長：受診している。

浅美委員：ボランティアの数はもっと必要だと感じる。

松本委員：勤務時間外の留守番電話対応について午後5時30分から午後8時30分までとある

が、留守番電話だと職員から直接話を聞けないことから、働いて帰宅した親の対応ができないという懸念がある。そのため、地域の方と保護者の理解が必要だと感じる。

浅美委員：クレーマー等、教職員の業務の妨げになる出来事は減少したのか。

教育長：クレーマーという表現はよくない。学校に要望を伝えてくれる人は、ご自身も子育てに悩んでおられる状況があるため、お子さんのために何ができるかというその悩みにどれだけ寄り添えるかということだと考えている。そういった悩みを抱えた人の数は変化していないように感じるが、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの配置数の増加や相談時間の延長、また法務アドバイザーの弁護士に相談できる体制も整っている。的確な指示を受けられることから、以前と比較すると、本当に困る前に対処する体制ができている。

押谷委員：個人的な意見になるが、意見を申し立てる保護者は増えていると感じる。保護者のケアも重要だが、学校側も職員を守る必要があるため、学校の仕事なのかどうかを正確に判断し、線引きをしっかりとアピールしていくべきである。それから、日本語が読めず、学校からお知らせを出しても読めない人が増え、対応をどうするかも考えなければならない。

教育長：保護者配信アプリすぐるは、日本語で配信した内容でも、本人が登録した言語で表示されるため非常に助かっている。

市長：風通しの良い意見を国にも上げていきたいため、教育委員の皆様や現場の職員たちの意見をまとめてほしい。

三須委員：中学校のプール管理について、事業者へ委託していくと記載があるが、現在のプールを維持するよりも委託した方が安いのか。

教育長：清掃のみの委託という意味で、授業の委託までは明記していない。中学校は水泳部があるため維持する方針だが、清掃業務は体育教員への相当な負担がある。

市長：プールを作り替える費用を考慮すると委託した方がよい。また、専門の指導者に教えていただくことから、教職員の負担軽減につながる。実績もある。

三須委員：更衣室の問題もあったため、委託をした方が安心できると感じる。

教育長：委託となると、引き受け手がいるかどうかという問題もあるため、やりたくてもできないという状況もある。

押谷委員：今は全て小牧市内の施設を使っているのか。

教育長：そのとおり。小牧市は1校だけだが、岩倉市は現在4校を受け入れていただいております、非常に助かっている。

市長：他の自治体では、事業者と共同でプールを作り民間に開放し、営利との両立をしている事例もある。

大村委員：教員以外が積極的に参加すべき業務項目の、「部活動サポーターや部活動指導員の拡充を図る」について、2年ほど前、南部中学校の野球部指導に地域の方が入ったことがあった。指導員の予算については学校ごとではなく岩倉市全体で決められており、その年は岩倉中学校にたくさん派遣されていたため、南部中学校は3学期分の予算がないという状況があった。令和8年度から11年度までにかけて教員以外

のサポーターが入る予定だと思うが、予算の捻出についてはどうなるのか。

市長：自治体の予算や、国や県からの補助もある。また、教育長が自ら市内の企業に支援をお願いするなど、様々な手段を講じている。部活動の地域移行についても、子どものためになるのかどうかが一番大切だと感じている。人間関係や上下関係について学んでいく大切な時期になる。

教育長：先ほどの3学期分の予算がなかったという話題については、実態に合わせて補正予算を組むなどやりくりしている。国のガイドラインにも、企業からの支援・援助を得るよう記載がある。

市長：これにて意見交換を終了させていただく。

(2) その他

特になし

4 その他

事務局：総合教育会議は例年1回としているが、令和8年度は教育大綱の見直しを行うため複数回開催する予定である。基本的には定例教育委員会の日程に合わせて開催するが、別日に行う可能性もあるため、ご協力をお願いします。